

別記
第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

コミュニティ名 子どもの「？」からはじまる授業研究団
代表者所属名 亀岡市立亀岡川東学園
代表者職・氏名 教諭・松岡 知弘 ㊞

京都府若手教員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名	子どもの「？」からはじまる授業研究団
2 研究テーマ	自分の思いや考えをもち、主体的に学ぶ子どもの育成 ～子ども自身の問題意識に沿った指導の在り方～
3 研究の目的	「子ども自身の問題意識に沿った指導を行う」ことを大切にした授業の在り方について、模擬授業や合同教材研究、実践発表などを通して理解を深めることで、自分の思いや考えをもち、すすんで他者と伝え合うなど主体的に学ぶ子どもの育成を図るため。
4 研究の成果と課題	成果 ①子ども自身の問題意識を大切にした指導の充実 実践A 6年 社会科 「長く続いた戦争と人々の暮らし」 書籍「子どもの問いからはじまる授業／樋口万太郎」の内容を参考に、導入時に出し合った子どもの問いをもとに学習を進めた。調べ学習の時間の確保、問いと単元の学びとの関連性の確認、シンキング課題への取組など、単元を通して子どもの問いを中心とした学習を進めることができた。授業後のアンケートにおいても、自分の興味・関心に応じて学習を進めることができる点について、肯定的な意見が多かった。 実践B 3年 「児童が自ら問いをもつ問題提示の工夫」 児童が自ら「問い」をもてるよう、問題との出会わせ方を工夫した。

	⑦提示する情報が足りていない。④児童によって考えにズレを生む。 ⑦児童が「先生それはちがう！」と言いたくなる。⑤あと少しで分かりそうな意図的混沌。④帰納的にきまりを発見できるゲーム性のある活動。⑦児童の選択、意思決定から始める。教材に合わせて出会わせ方を工夫することで、児童は自ら「問い」をもち、自らの力で考え、解決しようと楽しみを持ちながら、粘り強く学習に取り組んでいた。 ②各種研究会や授業実践の共有 コミュニティ内で実践交流会やグループLINEを通して、研究会の情報や授業指導案を共有することができた。 ○課題 ①研究内容の焦点化 今年度は、それぞれの教員が好きな教科で実践を進める形で研究を行ったが、学習の系統性をふまえた授業づくりについては十分でなかった。そこで次年度については、1つの重点教科・項目を絞ることで、系統性を大切にしながら研究を進めていきたいと考える。 ②研究内容の伝達・引継ぎ 今年度は、在籍校の研究項目と重なる部分があり、まとめレポートや実践交流会を通して、中学校教員を含む他教員にも実践内容を伝えることができた。しかし、まだ十分であるとはいえない。また、メンバー内での交流も数回に留まり、充実した研究ができたとはいえなかった。さらなる充実を図るために、来年度については、研究内容を広める方法も模索していきたい。		
5 研究成果の波及方法	・研究内容に関するレポート冊子の作成・配布 ・各小学校や義務教育学校での研修の実施 ・小中連携をふまえた中学校教員への広報活動		
6 研究(活動)実績	年月	研究(活動)内容(具体的に記載してください。)	活動場所
	2020/6	実践交流会①	亀岡川東学園

	2020/10	実践交流会②	亀岡川東学園
	2020/11	ベネッセ研修会への参加 (オンライン 講師：土居正博)	自宅 (zoom)
	2021/2	実践交流会③・研究活動の振り返り	亀岡川東学園
	2021/3	筑波大学附属小学校研究会への参加 来年度計画の話し合い (予定)	自宅 (zoom) 亀岡川東学園
7 予算執行 状況			

※ 紙面が不足する場合は、適宜行を追加し記入してください。